

世界に平和を・戦争の基地はいらない

横田基地ミニ情報 2018.6.25 No. 327 東京・羽村平和委員会発行



6月23日 CV-22オスプレイ4機 無通告で横田基地に3度目の飛来



CV-22 オスプレイ 4機が 6月23日(土)に、横田基地に飛来しました。4月5日、5月29日に続いて3度目。

- ・14時44分、CV-22 オスプレイ 1機 (13-0067) が着陸。
- ・14時48分、CV-22 オスプレイ 1機 (13-0069) が着陸。
- ・14時52分、CV-22 オスプレイ 1機 (14-0075) が着陸。
- ・14時55分、CV-22 オスプレイ 1機 (14-0074) が着陸。

6月4日(土)に横田基地を5機で離陸しましたが、1機(13-0071)は奄美空港に緊急着陸しました。エンジンの交換が必要で、7月中旬ごろまで、日本エアーコミューターの格納庫に入っています。オスプレイは欠陥機です!!

飛んではいけない時間帯(夜10時～朝6時)に28回も飛んだ 6月7日～17日

右の表は、6月7日から6月17日までの横田基地における運用時間帯外(夜10時から朝6時)の離着陸の記録です。しかも、無通告です。アメリカは、横田基地を真夜中でもいつでも自由に使っています。夜中に横田基地に離着陸したら周辺住民に迷惑がかかるかもしれないという配慮はなく、自分たちの都合です。すべて大型で、28回の離着陸です。



大型輸送機 C-17A は、サウスカロライナ州チャールストン基地、カリフォルニア州トラビス基地などから。



空中給油機 KC-135R は、在日米空軍・嘉手納基地などから。RC-135S をフォロー。



電子偵察機 RC-135S は、ネブラスカ州オフアット基地から飛来。嘉手納基地で運用されています。

日付	時刻	機種
2018/6/7	1時51分	C-17A
2018/6/7	3時00分	C-17A
2018/6/7	4時53分	C-17A
2018/6/7	22時40分	C-17A
2018/6/7	22時47分	C-17A
2018/6/8	22時49分	C-17A
2018/6/9	3時49分	C-17A
2018/6/9	23時23分	C-17A
2018/6/10	2時58分	C-17A
2018/6/11	4時33分	KC-135R
2018/6/12	3時05分	C-17A
2018/6/13	2時05分	C-17A
2018/6/13	3時50分	C-17A
2018/6/13	22時44分	C-17A
2018/6/14	0時14分	C-17A
2018/6/14	5時37分	C-17A
2018/6/14	20時03分	C-17A
2018/6/15	0時22分	C-17A
2018/6/15	1時37分	C-17A
2018/6/15	1時47分	C-17A
2018/6/15	3時12分	C-17A
2018/6/15	4時33分	C-17A
2018/6/15	23時03分	KC-135R
2018/6/15	23時11分	RC-135S
2018/6/16	22時05分	KC-135R
2018/6/16	22時08分	KC-135R
2018/6/16	22時25分	RC-135S
2018/6/17	20時33分	KC-135R

オスプレイ暫定配備反対 7.1県民大集会in木更津

会場：木更津市吾妻公園 13時オープニング、14時集会

6月23日
沖縄全戦没者追悼式で
相良倫子さんが朗読した詩が素晴らしかった
「しんぶん赤旗」
(2018/06/24 付け)



沖縄・名護市で、作業小屋に米軍のものと思われる流弾が直撃した

6月21日。隣接する米軍キャンプシュワブから飛んできた可能性があります。ドアのガラスを突き破り、壁に当たり跳ね返って窓のガラスを割りました。恐怖です。

生きる

浦添市立港川中学校3年

さがらりんこ
相良 倫子さん

沖縄全戦没者追悼式で朗読された詩の全文は次の通りです。



朗読する相良倫子さん
23日、沖縄県糸満市

私は、生きている。
マントルの熱を伝える大地を踏みしめ、
心地よい潮気を孕(はら)んだ風を全身に
受け、
草の匂いを鼻孔に感じ、
遠くから聞こえてくる潮騒に耳を傾けて。

私は今、生きている。

私の生きるこの島は、
何と美しい島だろう。

青く輝く海、

岩に打ち寄せしぶきを上げて光る波、
山羊の嘶(いなな)き、
小川のせせらぎ、
細に続く小道、
萌え出づる山の緑、

優しい三線(さんしん)の響き、
照りつける太陽の光。

私はなんと美しい島に、
生まれ育ったのだろう。

ありったけの私の感覚全て、感受性で、
島を感じる。心がじわりと熱くなる。

私はこの瞬間を、生きている。

この瞬間の素晴らしさが
この瞬間の愛(いと)おしさが
今と違う安らぎとなり

私の中に広がりゆく。

たまたまなく込み上げるこの気持ちを

どう表現しよう。

大切な今よ

かけがえない今よ

私の生きる、この今よ。

七十三年前、

私の愛する島が、死の島と化したあの日。

小鳥のさえずりは、恐怖の悲鳴と変わった。

優しく響く三線は、爆撃の轟(とどろ)きに消えた。

青く広がる大空は、鉄の雨に見えなくなった。

草の匂いは死臭で濁り、

光り輝いていた海の水面は、
戦艦で埋め尽くされた。

火炎放射器から吹き出す炎、幼子の泣き声、
燃えつくされた民家、火災の匂い。

着弾に揺れる大地。血に染まった海。
懸崖絶壁(ちみもりょう)の如く、姿を変えた
人々。

阿鼻叫喚(あびきょうかん)の壮絶な戦の記憶。

みんな、生きていたのだ。

私と何も変わらない、

懸命に生きる命だったのだ。

彼らの人生を、それぞれの未来を。

疑うことなく、思い描いていたんだ。

家族がいて、仲間がいて、恋人がいた。

仕事があった。生きがいがあった。

日々の小さな幸せを喜んだ。手をとり合って生き

てきた、私と同じ、人間だった。

それなのに。

壊されて、奪われた。

生きた時代が違う。ただ、それだけで。

無辜(むこ)の命を。あたり前に生きていた、あ

の日々を。

摩文仁(まふに)の丘。眼下に広がる穏や
かな海。
悲しくて、忘れることのできない、この島
の全て。

私は手を強く握り、誓う。
奪われた命に想いを馳せて、
心から、誓う。

私が生きている限り、
こんなにもたくさん命を犠牲にした戦争
を、絶対に許さないことを。

もう二度と過去を未来にしないこと。
全ての人間が、国境を越え、人種を越え、
宗教を越え、あらゆる利害を越えて、平和
である世界を目指すこと。

生きる事、命を大切にできることを、
誰からも慢(おご)られない世界を創ること。
平和を創造する努力を、厭(いと)わない
ことを。

あなたも、感じるだろう。
この島の美しさを。
あなたも、知っているだろう。
この島の悲しみを。
そして、あなたも、

私と同じこの瞬間(とき)を
一緒に生きているのだ。

今を一緒に、生きているのだ。

今を一緒に、生きているのだ。

今を一緒に、生きているのだ。

今を一緒に、生きているのだ。

戦争の無意味さを。本当の平和を。
頭じゃなくて、その心で。

戦力という愚かな力を持つことで、
得られる平和など、本当は無いことを。
平和とは、あたり前に生きること。

その命を精一杯輝かせて生きることだとい
うことを。

私は、今を生きている。
みんなと一緒に。

そして、これからも生きていく。
一日一日を大切に。
平和を想って。平和を祈って。

なせなら、未来は、
この瞬間の延長線上にあるからだ。
つまり、未来は、今なんだ。

大好きな、私の島。
誇り高き、みんなの島。

そして、この島に生きる、すべての命。
私と共に今を生きて、私の友。私の家族。

これからも、共に生きてゆこう。
この青に囲まれた美しい故郷から。
真の平和を築進しよう。

一人一人が立ち上がって、
みんなで未来を歩んでいこう。

摩文仁の丘の風に吹かれ、
私の命が鳴っている。
過去と現在、未来の共鳴。
鎮魂歌よ届け。悲しみの過去に。
命よ届け。生きゆく未来に。

私は今を、生きていく。